



うらやす

宇部市立上宇部小学校
学校だより 12月号
令和4年11月24日発行

危機意識

宇部市立上宇部小学校
校長 三輪 孝行

私は、本校職員に向けて週1ペースで資料を配付しています。昨年度は42号までいきました。今年度は、現在40号まで配付しているので、我ながらその順調ぶりに感心しています。

今回は、その資料の中から第3号で配付したものを御紹介します。

私たち教職員は、学期に一回程度、定期的に避難訓練をしていますが、頭の中では、「避難しなければいけないような事故は起こってほしくない。」という思いが日々の生活の中で埋没してしまい、いつも間にか「そんな事故は起こらない。」という勝手な思い込みに変わりがちです。

これが、危機管理の難しさです。

1912年に起きたイギリスのタイタニック号の沈没事故。当時のイギリスの規則によると、乗客全員分の救命ボートは必要なかったようで、映画でも、『沈まない船に救命ボートは無駄だよ。』のセリフがあります。この事故は、私たちに危機意識と備えの在り方について教訓を残してくれました。

避難訓練は、「起こるかもしれない。」という意識を前提にした時、はじめて効果的な訓練になります。

学校で行う避難訓練は、「もし、子どもたちが学校で生活している時に事故が起きたら・・・」を想定して行っています。一年間の内子どもたちはおよそ200日登校すると考えて、1日の学校生活の時間は8時間。つまり、一年間の中の1600時間程度学校で生活している時に、事故が起きた時を想定して避難訓練を行っているのです。

一年間は8760時間ありますから、子どもたちの生活を考えると、約2割が学校生活(1600時間)、約8割が家庭生活(7160時間)をしていることとなり、避難しなければいけない事故が起こる確率が高いのは、当然、子どもが家庭にいる時です。

しかし、これは確率の話なので、学校で事故は起こらないという訳ではありません。

今年は、台風接近に伴う暴風雨の影響から、子どもたちの登下校中の安全面を考えて市内一斉休校がありました。が、「いつ」「どこで」「どのような」事故が起こるか分からない世の中です。

新型コロナウイルス感染症や地震、火事、水害、交通事故、不審者対応等、起こってほしくない事件や事故ばかりですが、万が一に備えて、子どもたちにはその対策・対応について引き続き指導を行っていく必要があります。

ぜひ、御家庭でも、もしに備えての話をしておいてください。

保護者・地域の皆様には、本校教育の推進に向けてこれまで御協力をいただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。

来たる年が、事件や事故のない皆様にとって良き年であることを祈念し、今年最後の御挨拶といたします。